

3. 平成30年度春季「防音勉強会」 —「防音対策の初歩」—開催報告

一般社団法人日本音響材料協会
(Acoustic Materials Association of Japan)

平成30年度春季「防音勉強会」(講師:日本音響材料協会技術顧問・宮尾健一氏, 於: ローレル三田会議室)について報告させていただきます。今回は, 定員を超える多くの方に参加して戴き, 5月30日(水)と6月6日(水)の2回開催致しました。

この「防音勉強会」は, 「ゼロからのスタート」として, 防音の知識を白紙の状態から学びたいビギナーを対象とし, 実務経験50余年の講師と共に, 少人数で一緒に勉強するのが特徴となっています。受講対象は, 建築系学生, 防音材営業関係者, 音響コンサルタント, 建築設計者, 建築施工者, デイベロッパーなどです。毎回, 「防音」について何も知らない状態から, 最低限の知識を会得したい方々が参加されます。

今回は, 新人教育の一環としての参加が3機関あったのが特徴であり, 防音材メーカー営業関係者・製品開発者, 音響設計・施工者, コンサルタント・試験機関, 木質・鉄骨系住宅供給者, 防音室・シールド室設計施工者など多彩な分野の方々が参加して下さいました。

講師は, わかりやすく工夫したパワーポイントにより, 実際面を模擬したモデルなどを用い, 「防音対策の基本的な考え方」, 「実務を考えた防音の常道」などを解説していました。すなわち, 基本中の基本である単位「デシベル」について, 丁寧な説明により, その特徴とそれを基本とした「防音対策特有の考え方」をはじめ, 「音の伝搬形式による防音対策の違い」などの初歩的な事項を, 数学が苦手な受講者にも理解しやすいように説明していました。

内容は, 間違いやすい事項をまとめた「防音の常識・非常識」, 対策を取違えると大事に至る「空気音と固体音の違い」とそれぞれに対する対策方針, 遮音・吸音・制振・防振のメカニズムと防音対策への適用などを実務的な面を含めて解説していた。

また, ピアノの防音を例にとった防音対策方法の解説, 聴感の特徴と騒音計(サウンドレベルメータ)のA特性の関係, 「低い音」と「低周波音」の意味など, さらに, 手軽な防音対策と誤解されているアクティブノイ

ズコントロールの実際の効果等について, 事例を用いて説明していた。

集合住宅の遮音関係では, 特に「重量床衝撃音の等級表示」について, 我国で現在使われている測定法・評価法の意味するところを述べ, 表示する場合の留意点などを解説していた。

復習の時間では, 履修項目のうち特に重要な事項を再掲・説明していた。

質問の時間では, 次のような事項が出されましたが, これらについては, 逐次Q&Aコーナーに掲載してゆく予定です。

[質問事項]

- ・ TL_D , STC , R_w , R_m , $L_{iA, Fmax}$ の意味
- ・隙間の寸法・形状と遮音対策(充填材の使い方)
- ・真空ガラスの遮音性能
- ・品確法で, 重量床衝撃音レベル低減量 $\Delta L = +5$ とされる乾式二重床の幅木
- ・サッシで, いわゆる, 「普通型」, 「気密型(エアタイト)」, 「防音型」とJISのT等級との関係
- ・マンションにおける楽器練習室の防音設計

この他多くの質問を戴きました。

「防音勉強会」は, 防音の知識が白紙のビギナーを対象としたものですが, 当協会では, 毎年「音響基礎講習会(7月予定)」と「技術講習会(11月予定)」を開催しており, これらにもつながる勉強会です。

今後も「防音の初歩を学ぶ場」として, 「防音勉強会(春季, 秋季年2回)」を開催してゆく予定です(2018年度秋季は, 11月14日(水)開催予定, H Pに掲載)。

